

You, Unlimited

龍谷大学大学院

経営学研究科

Graduate School of

Business Administration

2027



経営学研究科

Graduate School of Business Administration



実践的な能力を身に付ける

経営学研究科で展開しているアカデミック・コースは、研究者または高度専門職業人養成のためのコースです。広い視野に立つ精深な学識を備え、かつ(1)その専攻分野における研究能力、または(2)高度な専門性を要する職業等に必要の専門知識を修得することを目的としています。

POINT

学びやすい学費と奨学金の充実で学生生活をサポート

他私立大学と比較して、学びやすい学費(年間:624,000円※入学金を除く)に加えて、本学独自の奨学金が充実しています。

教育理念・目的

建学の精神をふまえつつ、経営学の高度で専門的な知識を会得するための研究の推進及び応用能力の涵養を通じて、複雑な構造と機能をそなえた現代社会の要請にこたえる専門職業人及び研究者を育成することを目的とする。

専攻	修士課程	博士後期課程
経営学専攻	建学の精神をふまえつつ、経営学の高度で専門的な知識を会得するための研究の推進及び応用能力の涵養を通じて、複雑な構造と機能をそなえた現代社会の要請にこたえる専門職業人及び研究者を育成することを目的とする。	建学の精神をふまえつつ、経営学の高度で専門的な知識を会得するための研究の推進及び応用能力の涵養を通じて、複雑な構造と機能をそなえた現代社会の要請にこたえる自立した研究者を育成することを目的とする。

経営学研究科5つの特徴

- Point 1 多様なカリキュラムで「学びたい」ニーズに応える
- Point 2 少人数制で、教員のきめ細かい指導が受けられる
- Point 3 大学院生のみが使用できる共同研究室
- Point 4 大学院生研究援助費として図書カード(8,500円/年)給付
- Point 5 学内進学者に対して進学奨励給付奨学金制度(予約採用型)



実践を中心にしたカリキュラム

修士課程

経営学専攻

アカデミック・コース

研究職もしくは高度専門職業人養成のためのコースです。
広い視野に立つ精深な学識を備え、かつ専攻分野における研究能力を養成することを目的とします。



競争的リーダー・コース ※本学経営学部経営学科所属生対象

本学経営学部経営学科と接続したコースで、「管理者体験演習」を1年間、追加的に展開することを通じて、競争的ビジネスリーダーを養成することを目指します。早期履修制度を利用して、学部4年と本コース1年の5年間で学士と修士の二つの学位を取得できます。※所属条件や修了要件等の詳細は別途「龍谷大学経営学研究科履修要項」をご覧ください。

博士後期課程

経営学専攻

博士後期課程では、複雑な構造と機能をそなえた現代社会の要請にこたえる自立した研究者を育成します。

修士・博士論文及び課題研究題目(一例)

【修士論文】

- 脱炭素社会に向けたBYDの経営戦略に関する研究
 - ー 世界の脱炭素化の動向を踏まえて ー
- 組織パフォーマンスを向上させる効果的フィードバックシステム
- 個人パフォーマンスとチームパフォーマンスの関係について
 - ー お互いの影響力と向上させる条件 ー
- 米中貿易摩擦の下でのアジアにおけるICT企業の新展開
 - ー サプライチェーンの再編と新興国市場への展開 ー

【課題研究】

- 創造的チームパフォーマンスをあげる条件
 - ー 共鳴型リーダーの重要性 ー
- チームで新奇性を生み出すための8つの人間特性の応用
- 経営を維持し発展させる視点からのテレワーク研究
 - ー 小規模デザイン会社の事例から ー

【博士論文】

- 中国企業のFDI戦略の変容についての考察
 - ー 製造業のFDIを中心として ー

研究科長からのメッセージ



経営学研究科長
岩田 浩 教授

龍谷大学大学院経営学研究科は、1966年(昭和41年)経営学部開設を基礎として、1982年(昭和57年)に設置されました。以来40年近くにわたり、一般学生から社会人、そして近年では、大連外国語大学日本語学院との提携等により多くの留学生まで幅広く受け入れ、優秀な人材を輩出してきました。

本研究科では、建学の精神をふまえつつ、経営学の高度で専門的な知識を会得するための研究の推進および応用力の涵養を通じて、複雑な構造と機能をそなえた現代社会の要請にこたえる専門職業人および研究者の育成を教育理念・目的として掲げ、修士課程および博士後期課程を設置しています。

周知のように、私たちは現在、国際紛争による世界秩序の動乱、地球環境問題に起因する異常気象、AIを始めとする科学技術の目ざましい発展がもたらす功罪など、激しく変化する、先行きが不透明な時代を生きています。もちろん、企業に代表される組織も環境内的存在であるので、その運営に携わるリーダーや管理者は、こうした現代の乱流的な時代に組織をうまく適応させ、その存続を目指さなければなりません。

そのためにリーダーに求められるのは、全体状況を俯瞰的に捉え、問題の本質を迅速かつ的確に見抜く「洞察力」、雑多な情報を整理し概念化したうえで、問題解決のための斬新なアイデアを創出する「構想力」、創出されたアイデアを具現化しタイムリーに実行する「決断力」といった創造的で革新的なスキルである、と考えられます。もちろん、これら組織のリーダーや上位の管理者に求められるスキルは、直観的・感覚的的属性を内包しているので、本来かなりの実務経験を積まなければ身に付きません。とはいえ、こうしたセンスや感性が問われるスキルも(例えば、全体状況を俯瞰的に捉えるために経営戦略論の知見が有用であるように)、しっかりとした知識や理論的な基盤なしには効果的に発揮することができないことも事実です。その意味で、高度な専門知識を修得することには大いに意義があるのです。

このようなことから、本研究科では、有能な組織リーダーを育成することに力点を置いたカリキュラムを編成しております。その一例として、指導教員から専門的な知識や理論をより深く学べるように「演習」を週2回開講している点をあげることができます。これからも、本研究科で修得した専門的・理論的な知識が将来の実務経験に活かされ、卓越した実践的スキルを有するリーダーへと成長できるように、より良いカリキュラムの編成に努めていきたいと考えております。

在学生・修了生からのメッセージ

● Interview



一歩先へ、挑戦が可能性を広げる

肖 書琦 さん

2026年3月 経営学部卒業／2026年4月 経営学研究科入学
2025年度競争的リーダー・コース受講生

私が早期履修制度に魅力を感じたのは、大学院での学びを一旦早く始められるだけでなく、時間や学費の面でも大きなメリットがあると感じたからです。ただ、それだけではなく、学部での学びやゼミの特殊プログラムを通して、自分の関心のあるテーマをより深く追究したいという思いが強くなったことが、志望の大きなきっかけでした。特に私は、AI時代において新しい価値を生み出す企画力や、状況に応じて人や組織を支えるリーダーシップの在り方に関心を持つようになり、学部での学びをさらに発展させたいと考えるようになりました。

実際に学部4年次から大学院の演習や研究を履修してみると、学部の授業以上に、自ら問いを立て、その問いに対して根拠を持ちながら考えを深めていくことの重要性を強く実感しました。また、議論や実践の場では、前に立って周囲を引っ張る力だけでなく、全体を見ながら支え、周囲が動きやすい環境をつくることもリーダーシップの一つであると学びました。こうした経験を通して、自分自身の考え方や学びへの姿勢も大きく変化したと感じています。

大学院1年次の「課題研究」では、早期履修で得た学びを土台に、AI時代におけるリーダーシップや人材育成について、より実践的かつ専門的に研究を深めていきたいと考えています。学部での実践と早期履修で得た学びをつなげながら、大学院での研究をさらに深めていきたいです。

どんなに苦しい時でも、決して忘れてはいけない 煌めく未来は君の瞳の中にある

黄 潘鑫 さん

2026年3月修了

私の大学院生活は、「米中貿易摩擦の下でのアジアにおけるICT企業の新展開」という、常に変化し続ける複雑な課題に向き合う日々でした。国際情勢が目まぐるしく変わる中で、一つの正解を見つけることの難しさを実感する毎日でした。

研究を進める上で私が一番大切にしていたのは、とにかく多くの文献や資料を読み込み、自分なりに考え抜くことです。そして、そこで得た自分の考えや、どうしても解決できない疑問点をそのままにせず、先生とのディスカッションに持ち込むようにしました。先生との対話を通じて、自分一人の視点では気づけなかった物事の裏側や、多角的な考え方を学ぶことができたと感じています。調べ、考え、対話するというプロセスが、大学院で得た一番の成長であり、自信に繋がりました。

修了後は、この場所で培った多角的な視点を武器に、社会人として、変化の激しい社会の中でも柔軟に、そして粘り強く挑戦し続けていきたいと考えています。

研究生活は、時に孤独で、苦しい時期もあるかもしれませんが、でも、そんな時こそ、机に向かうだけでなく、先生や周りの仲間とたくさん話をしてみてください。自分の中にある小さな疑問を大切に育てることで、世界の見え方が少しずつ変わっていくはずです。どんなに大変な時でも、自分の可能性を信じて、一歩ずつ前に進んでいってください。



学費・諸会費について(2027年度予定額) 2027年度学費の詳細については、2027年度入学試験要項でご確認ください。

修士課程(通常学費) 経営学研究科			入学時納入金(単位:円)			後期(単位:円)		
			前 期			後 期		
			本学学部出身者	本学研究科の課程出身者	他大学出身者	本学学部出身者	本学研究科の課程出身者	他大学出身者
学 費	入学金		150,000	0	200,000	0	0	0
	授業料		306,500	306,500	331,500	306,500	306,500	331,500
諸会費※			5,500	5,500	18,500	5,500	5,500	5,500
合 計			462,000	312,000	550,000	312,000	312,000	337,000

※:校友会費(40,000円)は、他大学出身者のみ入学時に予納金として10,000円を徴収し、残額の30,000円は、修士課程2年次に徴収します。

【単位制学費については、ホームページ等をご参照ください。】

大学院生を対象とする奨学金

龍谷大学は奨学金制度を各種設けています。給付・貸与の資格は奨学金の種類によって若干の違いがありますが、基本的には学業・人物ともに優れ、健康で経済的理由のために修学が困難な学生が対象です。

奨学金の詳細 ※給付奨学金は単年度採用、貸与奨学金は最短修業年限までの採用です。これらの奨学金のほか、地方公共団体、民間育英団体の奨学金などがあります。

名 称		給付・貸与の別	金 額	2025年度採用状況			内 容
龍谷大学 給付奨学生	大学院学内進学 奨励給付奨学金 (予約採用型)	給付	年額15万円	55名 ※全研究科の合計人数です			本学大学院への進学を奨励するため、 本学学部から本学大学院に進学した者又は 本学大学院修士課程から本学大学院博士 後期課程に進学した者のうち学業成績及 び人物が優秀と認められる者に給付する。
	大学院研究活動 支援給付奨学金		年額20万円	136名 ※全研究科の合計人数です			研究活動を積極的に行う者の研究を 奨励するため、修士課程又は博士後期課程 の在学学生へ給付する。 ※研究科ごとに審査基準は異なります。
	大学院 成績優秀者 給付奨学金		年額15万円	71名 ※全研究科の合計人数です			修士課程2年次又は博士後期課程2年 次若しくは3年次生のうち、学業成績 が優秀であり人物的にも優れた者に給 付する。 ※研究科ごとに審査基準は異なります。
親和会海外研修奨学金			自己研鑽コース 10万円以内 研 究 コ ー ス 30万円以内		自己研鑽	研究コース	国際人としての育成を目的とし、日常の テーマを海外において、実証・研修しよ うとする意欲ある者に給付する。(書類・ 面接審査)
				夏期		1	
				春期	3	1	
				計	3	2	
				※学部学生含む			

名 称	対 象	第一種採用者数(実数)	第二種採用者数(実数)	合計採用者数(実数)
日本学生支援機構(貸与)	修士課程	28名	4名	32名
	博士後期課程	5名	0名	5名

※2025年度実績(予約採用者は除く)

※全研究科の人数

外国人留学生対象 奨学金

私費留学生対象の奨学金

学費・奨学金ウェブページをご覧ください。

沼田奨学金

1974年(昭和54年)、仏教の伝道に尽力されている仏教伝道協会初代会長沼田恵範氏の寄付を機に設置されたもので、建学の理念である仏教精神を体し、海外並びに国内において仏教伝道を志す学業人物ともに仏教学を専門的に学ぶ成績優秀な学生にその学資を補助し、将来の大成を助成します。

要項

日本語版

英語版

国費外国人留学生奨学金

日本政府(文部科学省)奨学金「国費外国人留学生奨学金」について

1. 大使館推薦による国費外国人留学生

日本国外に居住する大学院レベルの学生対象です。在外日本公館(日本国大使館・総領事館)に出願し第一次試験(面接・筆記試験等)に合格する必要があります。

出願方法や第一次試験については最寄りの日本公館へお問合せください。

在外公館による一次試験を合格された方へ
【受け入れについてのお問い合わせ窓口】
龍谷大学 グローバル教育推進センター事務部(平日9:00~17:00)
TEL: 075-645-7898 FAX: 075-645-2020
E-mail: kokuhi@ad.ryukoku.ac.jp

2. 大学推薦による国費外国人留学生

龍谷大学が大学間協定により受け入れる大学院レベルの正規留学生対象です

教員紹介

経営学研究科担当科目について ※2026年5月現在



岩田 浩 教授

経営管理論研究

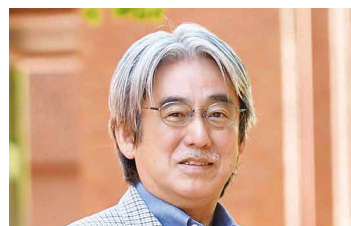
専門分野は経営学、特に経営倫理学を中心に研究しています。本学では、経営意思決定論と企業倫理論を担当しています。



河邊 純 教授

マネジメント思想研究

20世紀アメリカの経営学説思想史を専門に研究しています。特に、それぞれの学説思想が提唱された時代背景や学問的背景に関心をもって



鈴木 学 教授

会計原則論研究

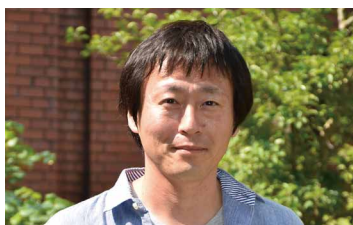
専門分野は財務会計です。とくに会社法における会計規定を中心に研究をしており、授業では連結会計論を担当しています。



于 健 准教授

国際比較経営論研究

経営学(コーポレート・ガバナンス論)を中心に研究しているが、現在、その研究テーマをさらに継続、深化させる一方、経営学のもう一つの柱である国際経営論(特に中国ビジネス論)や経営戦略論などに関する領域にも研究テーマを拡大しつつある。また中国以外にも日本やアメリカ企業の国際経営の問題にも研究対象を広げている。さらに、ベンチャービジネスや中小企業問題に関する研究にも取り組んでいる。



西岡 久充 教授

経営データ解析研究

ICT(情報通信技術)をキーワードとして、主に次の2つの研究を行っています。
(1)企業におけるICT利用による人・組織の変化に関する研究
(2)大学生のICTの利用状況や利用意識に基づく情報教育に関する研究
上記の研究を行う過程で、データ収集、データ分析などを重視しています。



井手 健二 教授

国際会計論研究

大学院の授業科目としては、国際会計論を担当しています。今までに取り上げた研究テーマと利用した方法は、次の通りです。
【テーマ】包括利益情報の関連性(一般事業会社、銀行業)、FTSE 100(英国)企業における開示、生命保険業におけるHedge会計、わが国における洋式帳簿の導入過程、サステナビリティ情報の開示、資産除去債務の会計
【方法】統計的手法、内容分析(content analysis)、文献研究、史料調査



加藤 正浩 教授

会計監査論研究

イギリスにおける職業会計士による財務諸表監査の制度を研究しています。財務諸表監査は、財務諸表の作成に関わる企業の自発性、イノベーション(発想の転換と技術革新)の許容限度を決めて、会計という企業の私的な生活領域に対して干渉する公共的な領域の限度を決める、無形の人間行為です。イギリスでは、公共的な干渉を法律によって硬直的に行うことを制限し、職業会計士を監査人として、許容限度としての規範を監査の現場で見極めるといったちを採用しています。イギリス社会におけるこのような制度を研究の対象としています。

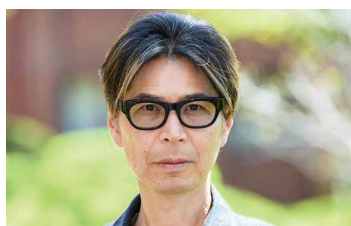


細川 孝 教授

企業論研究

担当科目は株式会社論であり、これに関わっては経営学の中でも企業論という分野が専門分野となります。そのため自己紹介する際には、「現代企業論」専攻としています。もともとは巨大企業、とくに現代医薬品企業を対象にした研究を大学院生時代から進めてきましたが、現在では地域企業や農業経営にも関心を広げています。

企業・経営を経済(的な効率)性のみからとらえるのではなく、社会性、社会的な存在としての企業という視点からもとらえるような教育と研究に取り組んでいます。



梶脇 裕二 教授

経営学原理研究

私は経営学史を研究しています。「経営学史」は、経営あるいは企業(組織)に関する理論(論者の主張)の特色や問題点を、その生成事情や当時の社会経済的背景など考慮に入れながら、探り出していく学問です。ある時代を区切って、そのなかの諸理論(主張)を比べてみたり、あるいは時代にとらわれず過去から現在まで、ある理論(主張)が進展していくプロセスを解明することなどを通じて、経営学の意義それ自体も問う研究分野です。



林 尚毅 教授

多国籍企業論研究

国際経営論を担当しています。企業が海外進出する動機は何か。またその多国籍化した企業がどのような構造的特徴を有し、どのような経営を実践しているのかなどを研究しています。また最近は多国籍企業のタックスヘイブンを紹介した無形財産の移転価格取引について関心があります。



藤木 潤司 教授

会計情報論研究

金融商品会計、固定資産の減損処理、自己株式取引の会計、財務諸表の表示といった財務会計における各テーマについて研究してきました。近年は、18歳人口の減少という状況を背景に、ますます重要性が高まってきた学校法人会計についても注目しています。



遠藤 明子 教授

流通システム論研究

マーケティングです。本学のカリキュラムでは「流通システム論」と「ソーシャル・マーケティング」を主担当し、年度によっては「マーケティングの基礎」なども担当します。マーケティングは、企業が顧客との望ましい関係を構築しながら持続的な企業利益を獲得していく活動ですが、扱う範囲が広がってきています。特に近年は企業の社会的責任や持続可能な社会に対してもコミットメントが求められるようになってきています。



藤岡 章子 教授

マーケティング論研究

専門はマーケティング。担当科目はマーケティング論のほか、食農ビジネスのフロンティア、プロジェクト実践などです。顧客との関係性マネジメントの仕組みに関心があり、サービス・マーケティングおよびリレーションシップ・マーケティングの北欧学派の研究にも取り組んでいました。最近は地産外消の農産物であるりんご、みかん、ぶどう山椒を用いた高付加価値商品やアップサイクル商品の開発プロジェクトにも関わっています。



栢木 紀哉 教授

マネジメントサイエンス研究

専門分野は教育工学・生産教育で、人の学習過程における理解度や意欲の変化について定量的・定性的に把握することを目指しています。近年は、(1)IT・ICTを活用した教育実践による学習効果の分析、(2)ものづくり現場における作業支援システムの開発と習熟効果の分析について研究を行っています。



濱田 崇嘉 教授

会計測定論研究

専門分野は財務会計です。昨今では、時価情報に代表されるような、不確実性の高い情報が、会計情報として提供されるようになり、その範囲も徐々に拡大しています。このような状況に対して、不確実性の程度が異なる情報を、財務諸表上で区分することなく表示することに問題はないのか、仮にそれを区分表示する方法があるとしたら、それはどのような方法なのか。このようなことを日々考えています。



木下 徹弘 教授

アジア企業経営論研究

アジア諸国の企業経営について研究しています。最近、日本、韓国、台湾、シンガポールを対象に、自国の労働力不足に対応するための外国人労働者受け入れ施策について調査研究を進めています。



坂本 雅則 教授

企業統治論研究

専門領域は企業権力論になり、方法論としては批判的实在論を採用しています。批判的实在論は社会的存在論に特徴があり、それを基礎に最近ではチームワーク論に研究領域を広げています。



宮本 琢也 教授

経営戦略論研究

専門は、経営戦略、国際経営、イノベーションマネジメントです。企業の海外進出や、技術開発競争などを研究しています。また、表面的な製品の競争だけでなく、その深層の部分の競争力につながるビジネスモデルについても研究しています。

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学大学院 経営学研究科

新たな知と価値を創造するために、
「心・知・行動」の拠点として、地域や世界の課題に対峙し、
問い続ける。それが、龍谷大学の研究のあり方です。

これまでの社会のありようや私たちの行動を省み、
先端的な研究や学際的連携による知の集約のもと、
世界の人々と協力して困難な課題に立ち向かう。
その姿勢と行動が、未来の可能性を切り拓いていきます。

京都深草キャンパス※ 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-7895 biz@ad.ryukoku.ac.jp

※2027年4月、「深草キャンパス」より名称変更。



経営学研究科のHPはコチラから

<https://www.biz.ryukoku.ac.jp/graduate/>

■ 入試について

「2027年度 入学試験要項」をご確認ください。
また、入試結果については入試情報サイトに掲載しております。
<https://www.ryukoku.ac.jp/admission/nyushi/>

■ 学費・諸会費について

2027年度学費・諸会費については、「2027年度入学試験要項」をご参照ください。

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2026年5月発行

